

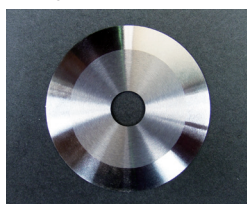
株式会社 信和機刃

経験とノウハウを生かし、
高品質の丸ナイフを製造メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット

熟練の技で丸ナイフの歪みを取る

業務内容
最適形状の
丸ナイフを提案

食品や建材など各種加工に装着して使う真円形の刃物である丸ナイフを製造販売する。丸ナイフはさまざまな機械に装着するため標準品がなく、受注生産となる。大きさは外径50mmから520mm程度のものに対応できる。加えて、切断する対象物に応じて、材質、厚み、硬度、刃先の角度などさまざまな工夫が可能。35年以上丸ナイフを製造してきた知識やノウハウを生かして幅広いニーズに対応する。初めて丸ナイフを採用する場合には、最適な形状の丸ナイフを提案することもできる。丸ナイフは消耗品のため、刃先の欠けの直しなどメンテナンスも手がける。



使用に応じた丸ナイフを製作

強み
手作業による歪み取りで
高精度化を実現

丸ナイフの製造工程は、角材に穴を開け、プレス機で四角を切り、旋盤で丸く加工した後、内径を加工して熱処理に回し、歪みを取って研磨、刃先から中心にかけての「しのぎ」という部分を加工して粗加工、仕上げ加工を経て、刃を付け平面研磨し、その後再び歪みを取る。この一連の作業の中でもっとも重要なのが手作業の歪み取りだ。平面の歪みを示すふれ精度を0・15mm以内、厳しいものは0・1mm以内に抑える必要がある。例えばイカそうめんの丸ナイフは何

枚も重ねて使うため、厳しい精度が求められる。平田和彦社長は熟練の技術を持ち、他の追随を許さない精度の製品を製作する。

独自
どんなニーズにも対応

さまざまな形状や素材に対応できる力も持つ。波形の刃形状や、のこぎりの目のような形状に加工ができる。特に、屋根材の切断に使う超硬材を使った丸ナイフはほかに真似ができないものだという。刃の部分が超硬材で、それをロウ付けして加工する。さらに、ユーザーのニーズに応じた工夫にも自信を持つ。平田社長は「長年の経験で、最適な丸ナイフを提供できる」と胸を張る。実際に丸ナイフの導入実績は優れたもの。食品メーカーの加工機械を中心に、業種も幅広い。受注生産なのでシェアなどのデータはないが、かなりの引き合いがあるという。

今後の
展望
技能継承と
着実な成長を目指す

製造現場で働くのは父親である社長と、息子2人。金槌で叩きながら歪みを取る技能は社長が一番で、息子2人に継承中だ。「丁寧に歪みを取りつつも、枚数もこなさないといけない。バランスが重要」と平田社長は説く。企業としては、知名度の向上が課題という。最近は製品に独自のマークを入れるようになった。新規の顧客を開拓するため、ゆくゆくは展示会などへの出展をしていきたいという。人材も採用したい考えで少しずつながら、着実な成長を描いていきたい考えだ。

COMPANY PROFILE

株式会社信和機刃

大阪
27当社の
歴史

自動車関連で使われるメタルソーの修理から事業を開始しました。その後、価格競争の激化から、約35年前に技術を生かした付加価値の高い業態を模索し、機械に装着する丸ナイフの受注にシフトしました。

寸法、材質、厚み、刃先角度など、
ユーザーの特性に応じた丸ナイフを製造します。

代表取締役社長 平田 和彦さん



■主な事業内容

産業用・食品用丸ナイフ
の製造・販売・修理

■主な取引先（納入先）

産業用機械・食品機械
メーカー、建材や繊維など
各種素材加工業者、機械
工具商

住 所／〒571-0015
門真市三ツ島
6-19-12

T E L／072-885-1205

F A X／072-885-1207

創 業／昭和45年11月

設 立／平成元年5月

資本金／1,000万円

従業員／4名

<http://www.eonet.ne.jp/~shinwakijin/>